

1 はじめに

上浮穴支部では、今年度、支部内全ての小・中学校にタブレット端末が整備された。併せて学習支援ソフトウェアも導入され、これらを使って授業改善を図っていくために何ができるのか、どのように活用していくのか実践研究に取り組んでいる。

2 実践事例

(1) 学習支援ソフトウェアの活用講習会（令和元年6月13日）

新しく導入された学習支援ソフトウェアの活用方法につ

いての講習会を、久万高原町教育委員会と連携して開催した。まず、基本的な準備内容として児童・生徒一人ずつのアカウント登録、使用者の切り替えや教科の登録、授業ごとの切り替えなどを行った。次に、それぞれのタブレット端末に書き込んだ内容を教員機で集約し、それを提示、比較、拡大などの機能を使って発表することに取り組んだ。また、互いに端末を指定し情報を送り合う機能も学び、それを基にグループ討議を行うなど、双方向の通信機能を活用し授業で生かす方法を研修することができた。



(2) 授業における学習支援ソフトウェアの活用（久万高原町立明神小学校の取組）

導入された学習支援ソフトウェアを使い、国語科の授業の中でどのようにICTを活用すると効果的か、実践研究を行った。

ア 2年物語文 「音読劇をしよう」

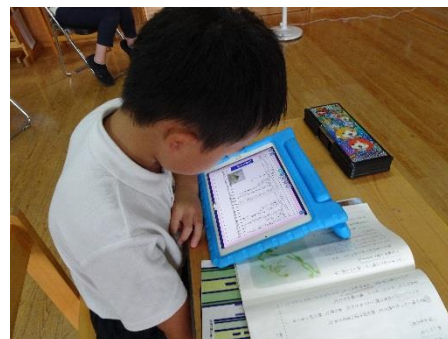
一人一人が音読する際の工夫を書き込んだワークシートを集約し、まとめたものを提示することで、全員で工夫するポイントを共有することができた。

イ 3年物語文 「好きな場面を紹介する」

ワークシートをタブレット端末に取り込み、書き込んだものを集約し一覧表示して、比較した。そのワークシートを場面ごとに色分けすることで、好きな場面が一人一人違うことが視覚的に捉えられた。

ウ 6年作文 「私はこう見る」

一枚の絵を見て、分かったことと感じたことを色分けしたテキストボックスに記入し、紹介し合った。絵を拡大し、気付きにくい細かな所を見て紹介するなど、見る人によって同じ見方、違う見方があることを感じる事ができた。



3 成果と課題

上浮穴支部は小規模校が多く、タブレット端末が一人一台使えるという恵まれた環境を生かした取組や研究推進ができています。今後さらに支部全体で、ICTを活用した授業改善を「少人数だからできる」と、「少人数のハンデを補う」という二つの観点で進めていきたい。